

北京宣言及び行動綱領 30 周年にあたり、ナダ・アル＝ナシフ国連人権副高等弁務官の挨拶

2025/09/08

国連人権高等弁務官事務所

「北京宣言及び行動綱領は女性の権利とジェンダー平等において大きな転換点となった。しかし、多くの分野でジェンダー平等の進展が遅れている。未然に防げる原因によって 2 分間に 1 人の妊産婦が亡くなり、パートナーや近親者による暴力によって 10 分間に 1 人の女性が命を落としている。議会における女性議員の割合はわずか 26.9%である。女性は男性に比べ、2.5 倍の時間を無償のケア労働に費やしている。障がいのある女性、高齢女性、移住者女性、民族的、宗教的、言語的マイノリティの女性、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセックスの女性、その他の周縁化された女性たちはより不利益を被っている。さらに私たちは今、ジェンダー平等、女性と女児の権利と自己決定権に対する反動を目の当たりにしている。一方、条約機関はインターセクショナリティ（交差性）、暴力の構造的な原因、意思決定への女性の参加、性と生殖に関する健康について一般的勧告/意見を出している。また、国連特別報告者の貢献も重要である。さらに私たちの事務所は「妊産婦の死亡・疾病の除去に人権ベースのアプローチから取り組むためのテクニカルガイダンス」の[アップデート](#)を作成し、人権理事会 60 会期に提出する。私たちは何が効果的か、何をしなくてはならないかを知っている。北京+30 にあたり、世界中の女性と女児の夢や希望を実現する革新的な行動を通じて、1995 年に掲げた約束を成し遂げる決意を新たにする」。

【記事全文】[Commemoration of the 30th Anniversary of the Beijing Declaration and Platform for Action: Following on CSW 69 and Beijing+30 Action Agenda](#)